

令和7年9月16日（火）
大阪府河川整備審議会
令和7年度 第1回
治水専門部会

資料2

大阪府 河川長期ビジョン(仮称)について

大阪府 長期ビジョンのイメージ(案)について

【かわの理想の将来】

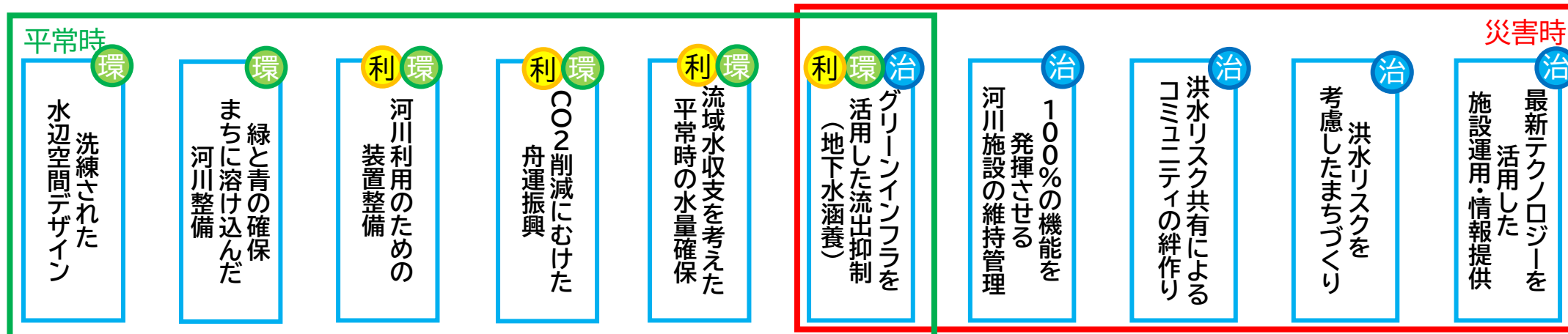
- ◆ まち並みに溶け込んだ、絵葉書になるような美しい、また祭りやアクティビティなど、地域ごとに土地の息吹が感じられる河川を目指します。
- ◆ 大雨時には、グリーンインフラが集積した集水域とともに、最新のテクノロジーを活用し、洪水がアンダーコントロールされている状態を目指します。
- ◆ 河川から溢れた場合であってもコミュニティの「絆」により住民の命を守り抜きます。
- ◆ 「世界一水害に強いまち」として、世界中からのビジネスを呼び込みます。

望ましい未来の河川の姿からバックカスティング思考による目指す「かわ」の姿

人を中心とした活力ある都市の実現に向け、

府民・来阪者が誇りたい、見に行きたくなる「かわ」の実現

- 大雨など災害時に河川や周辺施設により人に被害がおよばない安全・安心なかわ
- 平常時に府民が快適に利用できる、まちや地域に溶け込んだ美しいかわ



(注釈)

本資料は意見交換のための資料であり検討中の内容となります。
そのため、内容については変更することがあります。

次期 河川長期ビジョンのイメージ(案)について

治
河川区域・氾濫域・集水域を
含めた今後の治水対策のあり方

利 環
気候変動の影響を見据えた自然環境と
かわとのかかわり方

環
まちとかわの交わり方

ひととかわとのかかわり(かわへの関心(災害時の心構え・愛着))



これまでの計画である「今後の治水(H22大阪府)」や「河川整備長期計画(H8大阪府)」を
ベースとし、近年の気候変動等の影響を踏まえた治水対策の発展

これからの河川づくりにあたっては改めて下記のスタンスを配慮【河川景観ガイドライン「河川景観の形成と保全の考え方」】

- ①風景の成り立ちを読む ②自然を基調とする ③微地形や水の流れを尊重する ④水や物質の循環をかたちづくる
⑤変化を許容する ⑥治水・利水のシステムを支える ⑦地域の歴史・風土に根ざしたものとする ⑧暮らしの中に水を意識する

骨子(案)

「河川整備長期ビジョン」において目指すべき目標(これからのかわづくり)

～誰もが安全・安心なまち 水都大阪の実現に向けて～

- ① 治水対策の重層化(流域治水の推進、流域で洪水を受け持つ)
 - 気候変動の影響をふまえた将来1/100降雨による浸水被害をなくす
 - あらゆる手法を組み合わせ、想定以上の降雨(将来1/100以上)が降った場合であっても被害者0に
 - 新技術の導入により効率的な日常管理、速やかな災害対応
- ② かわを活かしたまちづくり、まちを活かしたかわづくり
 - 府民や企業が来たくなるような河川の活用、整備、魅力づくり(まちづくりと連携した堤防のリデザイン)
- ③ 人と自然との共生
 - 大阪(都市)における自然と触れ合うことの出来る窓に。都市と自然をシームレスに往来できる水、緑が身近なまち

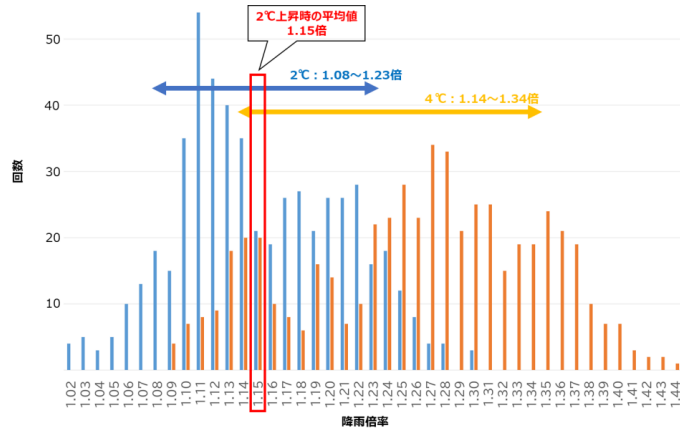
(注釈)

本資料は意見交換のための資料であり検討中の内容となります。
そのため、内容については変更することがあります。

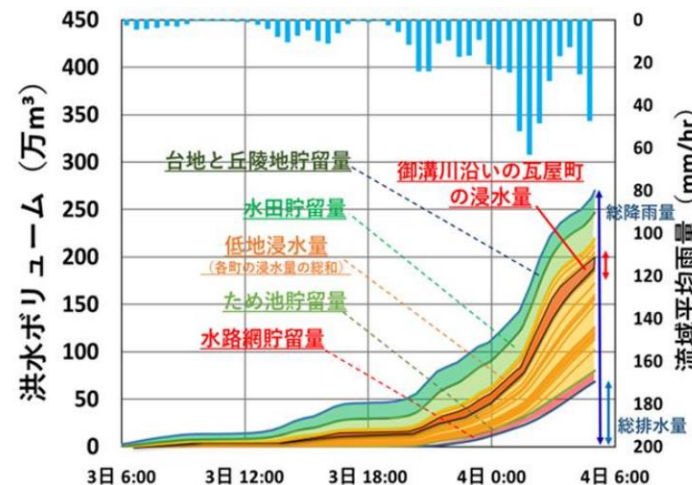
次期 河川長期ビジョンのイメージ(案)について

河川区域・氾濫・集水域を含めた今後の治水対策の在り方

気候変動の影響を見据え、大阪府域における降雨量変化倍率(1.15倍)までは都市全体においてアンダーコントロールを実施

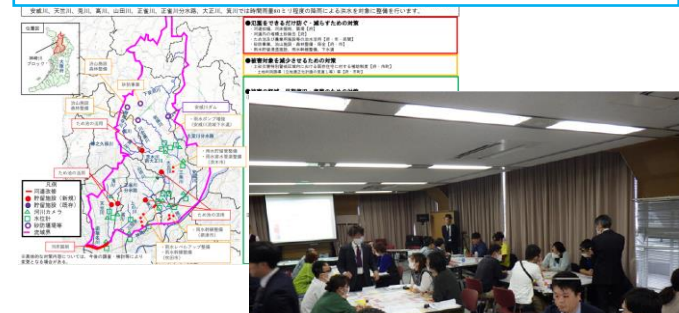


流域治水の旗振り役として、気候変動による洪水の増大や渇水を意識した「流域水収支図」の提案



洪水リスクを考慮したまちづくり
コミュニティづくり

左記の検討を反映させた流域治水PJの更新



コミュニティタイムライン作成を活かした訓練
(松原市)

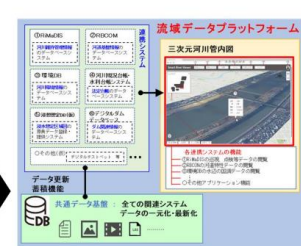
新技術を活用した施設運用や維持管理、情報提供の検討



データの取得

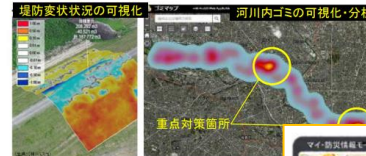


データの蓄積・共有



流域に関する様々なデータを一元的に蓄積し、利用しやすい形で共有

データの分析・可視化



異なるデータを重ね合わせて治水対策

新技術を活用した
維持管理、情報提供
(国交省)



避難に必要な防災情報の一元的な表示

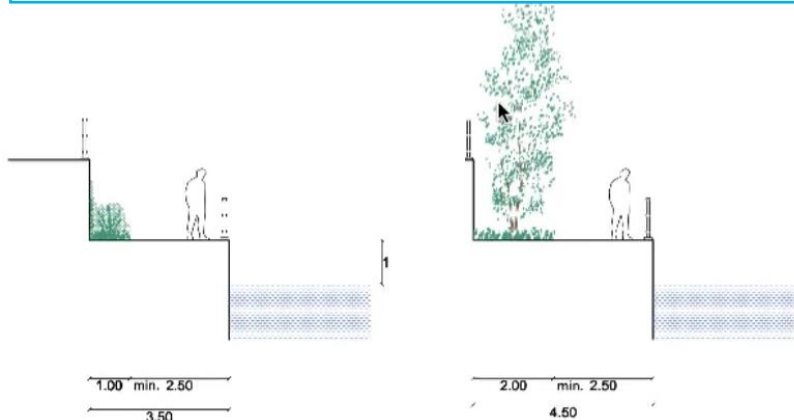
(注釈)
本資料は意見交換のための資料であり検討中の内容となります。
そのため、内容については変更することがあります。

次期 河川長期ビジョンのイメージ(案)について

まちとかわの交わり方

地域のなりたちやニーズを背景とした河川・水辺空間の整備

地域のニーズに応じた護岸・河川空間整備による場の提供

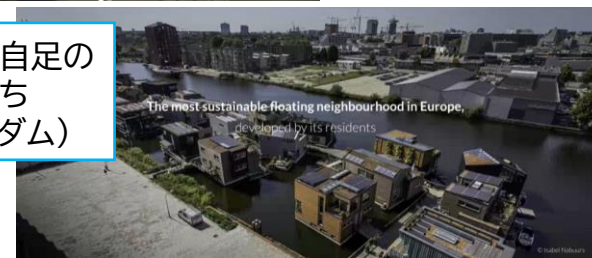


利用にあたっての
装置整備の例
(ヘルシンキ)



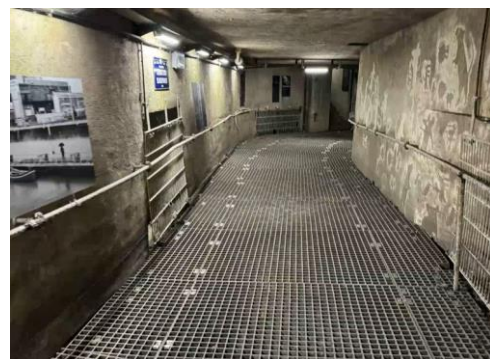
東横堀川水門
旧管理棟のホテル利用

基本全て自給自足の
水上のまち
(アムステルダム)



大阪のなりたちや防災の教育を通じ、府民や来阪者の大阪の河川や洪水など災害に対する解像度を向上

まちのなりたちについて
教えてくれる博物館等の施設
(アムステルダム)



下水道の博物館
(ブリュッセル)



CO2削減を意識した水の回廊を中心とした舟運ネットワークの形成

地下鉄から舟運への案内
(ロンドン)

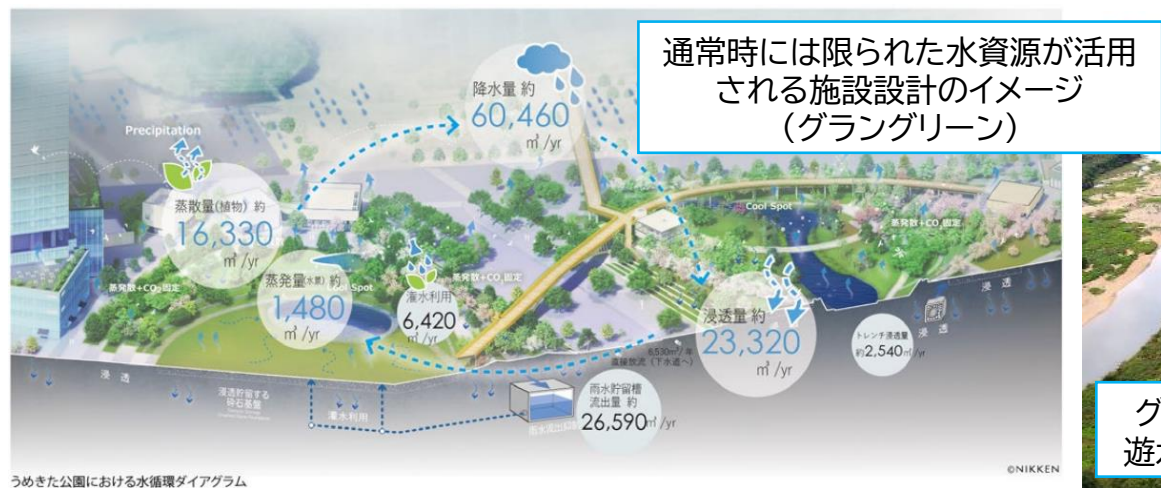


(注釈)
本資料は意見交換のための資料であり検討中の内容となります。
そのため、内容については変更することがあります。

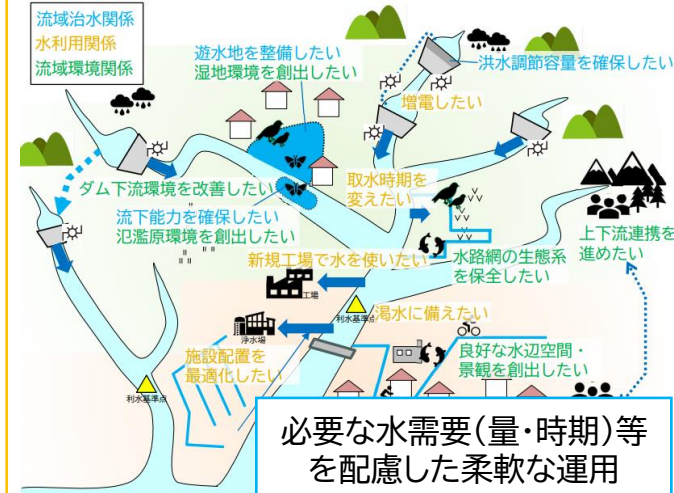
次期 河川長期ビジョンのイメージ(案)について

気候変動の影響を見据えた自然環境とかわとのかかわり方

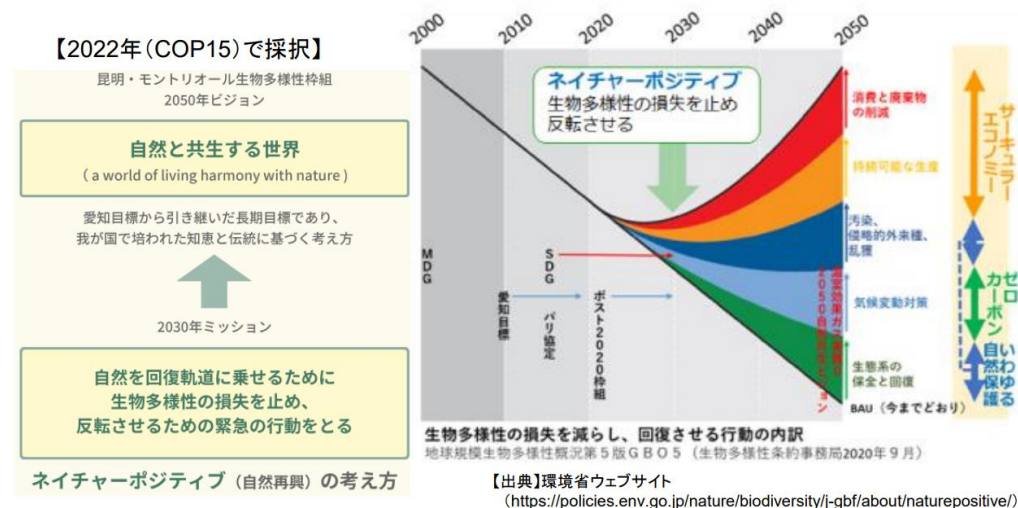
流域水収支や流出抑制を考えたグリーンインフラな河川施設の設計



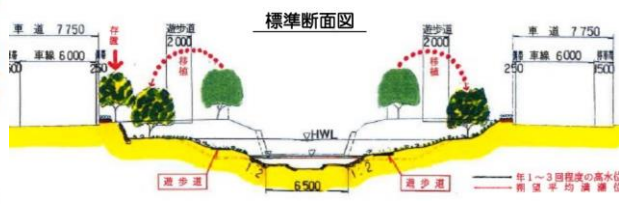
水の恵みの最大化を意識した水運用



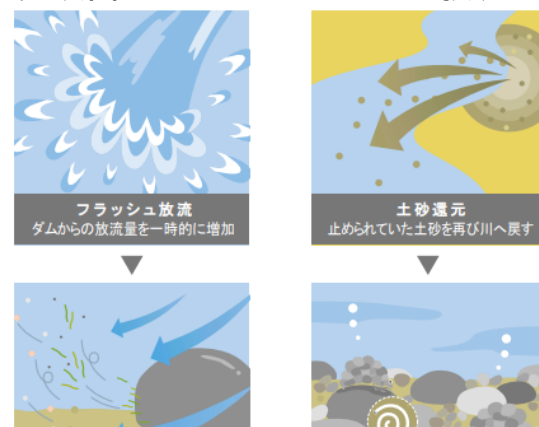
「ネイチャーポジティブ」や「平常時の維持流量確保」を実現する河道の設計



- 「河道が動くこと」に留意した河道の初期形状、将来形状を予測し評価
- 治水上の目標流量等のほか対象とする自然環境の支配的な流況(平水位・平均年最大流量・渇水流量等)も検証



河川環境改善のためのフラッシュ放流



(注釈)
本資料は意見交換のための資料であり検討中の内容となります。
そのため、内容については変更することがあります。